

## 緊急市民公開講演会

### 「萎縮医療」、「たらい回し」をストップするための緊急提言

(日本集中治療医学会, 日本麻酔科学会 共同開催)

医療事故が社会問題化するなかで、医療安全の向上と信頼の回復が国民的課題となっています。そのために、診療に関連した死亡事例について、死因を究明・分析して真相を明らかにし、再発防止に役立てる社会システムの構築が不可欠となっています。

2007年10月に厚生労働省より、“診療行為に関連した死亡の死因究明等の在り方に関する試案(第二次試案)”が公表されました。その後、上記試案に基づいて、2007年11月30日付けで自由民主党から“診療行為に係る死因究明制度等について(案)”が公表され、合意が得られれば、立法化を目指すこととなりました。

診療関連死に関する新たな立法措置を講ずるという趣旨には基本的に賛成であります。我々は、国民を医療事故から守る立場から、「何が起こったのか」、「なぜ起こったのか」、「再発予防にはどうすればよいか」を究明し、単なる「犯人探し」を避けなければいけません。そして、このような「再発防止」を目的とするシステムが機能すれば、遺族側の第一の願いである「反省・謝罪、責任の追及」は、民事訴訟、刑事訴訟、処分といった従来手段でより適正に機能できるようになると考えています。今、このような重要な問題が国民的な十分な論議を踏まえず立法化されれば、わが国は「萎縮医療」、「たらい回し」が進み、自由で健康な生活を送るという憲法の基本理念が損なわれます。

我々は医療の安全を求める患者・国民の立場を医療専門家として代弁している役割を果たすため、患者・国民と対話を持つ機会を設け、患者・国民と共同した医療事故の原因究明とその対策を構築するためのシンポジウム開催を提案します。

医療従事者のみならず、一般の方々が多数参加していただきますようお願い申し上げます。

### 記

期日:2008年2月16日(土)15:30-17:30

場所:京王プラザホテル本館5F「コンコルドB」(第35回日本集中治療医学会会場)

参加費:無料

主な討議内容:「新しい医師=患者の信頼関係構築を目指して」

司会:帝京大学 森田茂穂, 自治医科大学 瀬尾憲正

- 1) 舛添大臣からのメッセージ
- 2) 医療問題弁護団からの提言:医療問題弁護団 代表 鈴木利廣
- 3) 厚生労働省からの提言:厚生労働省医療安全推進室長 佐原康之
- 4) 日本集中治療医学会:愛知県厚生連 海南病院 西田 修
- 5) (社)日本麻酔科学会ワーキンググループからの提言:癌研究会有明病院 横田美幸

連絡先:社)日本麻酔科学会 事務局 03-3815-0590, kai@anesth.or.jp